

「倫理」シラバス

学科	普通科	学年	3年	類型	I・II	組	1・2組	単位数	4
使用教科書	高等学校 新倫理 新訂版（清水書院）								
副教材等									

1 学習の到達目標

- (1) 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。
- (2) 人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育む。

2 学習評価

次の四つの観点に基づき、各学期とも定期考査までの学習内容をまとめとし 100 点法で評価し、学年末に評定に総括する。

① 関心・意欲・態度	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲を持つとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付けられたか。					
②思考・判断・表現	人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として主体的かつ公正に判断できるか。					
③資料活用の技能	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を収集し、これらを自己形成に資するよう活用するとともに、追求し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できるか。					
④知識・理解	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けられたか。					
評価方法	観点	①	②	③	④	備 考
学習状況の観察		A	B	B	C	毎時間の観察
課題レポート		B	C	A	A	長期休業中に実施
ノート提出		A	A	A	C	定期考査後に実施
ペーパーテスト		C	A	C	A	定期考査・小テスト

※ 表中のA・B・Cは評価の重要性を高い順に表している。

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一 学 期	第1編 現代に生きる自己の課題 1 人間とは何か 2 青年期の課題と自己形成 第2編 人間としての自覚と生き方 1 人生における哲学 2 人生における宗教 3 人生の知恵 4 人生における芸術	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解し、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えるとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることを捉える。 ・人生における哲学、宗教、芸術の持つ意義などについて理解し、人間の存在や価値に関わる基本的な課題について思索することを通して、人間としての在り方生き方について考えを深める。
二 学 期	第3編 現代社会と倫理 1 現代の倫理的課題 2 現代に生きる人間の倫理 第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 1 日本の風土と外来思想の受容 2 現代の日本と日本人としての自覚 第5編 現代の諸課題と倫理 1 生命と倫理 2 環境と倫理 3 現代の家族とその課題 4 地域社会の変容と共生 5 情報社会とその課題	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間との関わり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付け、他者と共に生きる自己の生き方に関わる課題として考えを深める。 ・日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己との関わりにおいて理解し、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深める。 ・生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的課題を自己の課題とつなげて探求する活動を通して、論理的思考力や表現力を身に付けるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深める。
三 学 期	6 グローバル化の時代と倫理 7 人類の福祉と国際平和	